

編集後記

この編集後記を書いている今、ソウルオリンピックは終盤に入っている。話題になった、ジョンソンとルイスの対決は、驚くべき世界記録で金メダルを手にした前者の勝であった。しかし、彼が筋肉増強剤を使用していたとのことで、メダルの剥奪と2年間の出場停止という判定が下された。薬物使用の禁止を守らなかったことは、問題があるにせよ、もしその使用によって、あれほどの記録が出せたとしたら、これは注目に値する事実と言える。薬物を病人の機能を高めるのに用いることはできても、人間の限界を拡大するのに用いていけないのは、アマチュアスポーツ精神に反するからか。科学を駆使したスポーツ用具の改良によって更新された記録はいくらでもあるが、科学的成果による薬物使用は、単に副作用を案じてのことか。

さて、今月号の特集は脳卒中である。われわれセラピストは、その業務範囲からして、ややもすると片麻痺、もしくは運動障害の改善に主眼を置いて患者のADLを拡大しようとする。しかし、周知

の如く、CVAによる障害や随伴症状は多岐に及ぶ。それらのキョウなケアを医師やナースだけに委ねるのではなく、セラピストがさらに関与を深め、それらの改善に努めれば、患者のADLやQOLの拡大に結び付くことがあると確信する。そのようなことから、田中氏には豊富なデータに基づき随伴症状の一部について述べていただいた。丸田氏には文献的考察を交えて、脳血管性痴呆のとらえかたと対応について、そして呼吸機能については、種々のデータを収集し、研究報告に匹敵するような形式で、高島氏に書いていただいた。失語症患者とのコミュニケーションについては、セラピストの治療場面の観察、分析に基づき、ちよっぴりアイロニーを加えて熊倉氏に示唆していただいた。

患者がオリンピックではなく、再び社会に参加できるように、セラピストは良きコーチ役としても彼らの像をトータルに視角に入れたいものである。

(奈良 勲)

<編集顧問>

天 児 民 和

九州労災病院名誉院長

五味 重 春

東京都立医療技術短大長

津 山 直 一

国立身体障害者リハビリ
センター総長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大 喜 多 潤

兵庫県玉津福祉センター

寺 山 久 美 子

東京都立医療技術短大

富 岡 詔 子

信州大学医療技術短大

奈 良 勲

金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子

筑波大学

松 村 秩

東京都立医療技術短大

<編集同人>

池 松 洋 子

岩 崎 テ ル 子

宇 都 宮 初 夫

金 子 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 み ち 子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子

理学療法と作業療法

(第22巻 第11号)

1988年11月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,350円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 15,120円)
(送料弊社負担)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金 原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1988, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

訂正とお詫び

『理学療法と作業療法』第22巻第9号の濱出茂治論文中に以下の誤りがありました。584ページ左段下から16行目、「…股関節温が39.2℃、皮下温が38.9℃まで…」は「…股関節温が37.4℃、皮下温が36.4℃まで…」の誤りで、また図の2と3とが入れ換わっておりました(説明はそのまま)。

また、第22巻第11号の「世界の同僚たち」の743ページ、顔写真の名前「Mr Surasahu Surisuk」は「Mr Surasaku Srisuk」の、764ページ「編集後記」の右段2行目「…キューアなケアを…」は「…キューアやケアを…」の誤りでした。

以上、訂正し、お詫び申し上げます。

(本誌編集室)